

3

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100003	非侵襲的脳機能画像法を用いた社会能力発達過程の解明	定藤 規弘 (自然科学研究機構・生理学研究所・大脳皮質機能研究系・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>(1) 経過の中に、具体的成果の記述が少ない。たとえば、***を開始した、**の計測を行った、**の評価を行っている、等の記述にとどまる。</p> <p>(2) 脳機能イメージングの利用が新たに何をもたらしたか、あるいは、何をもたらしそうか、が明確に記述されていない。単に、被験者にある刺激を与えたら画像のどこが有意に活性化されたかを見せているだけで、そこからどんな知見が得られるかがはっきりしない。</p> <p>(3) 福井大の装置関連の進行に遅れがあったようであるが、それは当初予定から見て支障ない状態になったのかどうか明確な記述がない。単に「再開した」とあるのみである。</p> <p>(4) 成果の発表も物足りなく、代表者に集中している。役割分担も見直し、一層積極的に成果を発信して欲しい。</p> <p>(5) 当初の計画よりも研究の進捗がかなり遅れている。反面、本研究の手法には、それらがうまく機能すれば新しい知見に繋がる期待は持てる。ただ、画像化したから直ちに新知見に繋がるか疑問で、その点に留意する必要がある。</p> <p>以上により、本研究は今後一層の努力が必要である。実験の狙いをより明確に、具体的にすること、そして、その結果としてどのような知見が新たに得られるかも明確にして欲しい。</p>			

4

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100004	内因性カンナビノイドを介する逆行性シナプス伝達のメカニズムとその生理的意義の解明	狩野 方伸 (大阪大学・大学院医学系研究科・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究計画は、研究代表者自らが世界に先駆けて発見した内因性カンナビノイドによる逆行性シナプス伝達機構と、その生理機能上の意義を解明することを目的とする。</p> <p>内因性カンナビノイドは、シナプス可塑性などシナプス伝達調節に重要な役割を果たすと考えられ、本研究は神経科学の最も重要な課題である記憶・学習機構の研究で中心的な位置を占めることが期待される。</p> <p>さらに、本研究は綿密な計画を着実に実施し、予想をはるかに上回る成果を上げている。世界的に競争の激しい分野において質の高い研究成果を発信し続けており、遺伝子改変動物の作製等も進み、今後、内因性カンナビノイド系のシナプス可塑性と脳高次機能における役割の解明も含め、更なる発展が期待できる。</p>			